

せおと

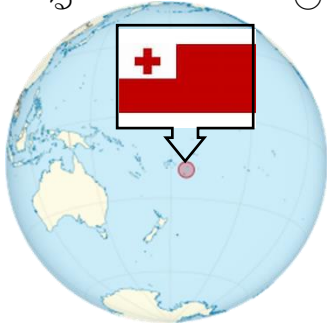
岡崎市立常磐小学校

令和四年一月二十日

「被災地」を思う

トンガってどこですか。六年生の子が話しかけてきました。すぐに太平洋の真ん中に浮かぶ島だよと答えました。(左図参照)今回、海底火山の大噴火が起こって、たいへんなことになっていくトンガは、東日本大震災の時に支援の手を差し伸べてくれた国の一つです。そんなトンガを知るとともに、日本の各地で起こっている災害から、防災について考えてみたいと思いました。

トンガ王国は、南太平洋に浮かぶ約一七〇の島群からなる国家です。二〇二一年現在のトンガの人口は一〇四四九四人です。多くの人が農業や漁業で生活しているようです。写真で見るとンガは、緑豊かなとても美しい島々です。その場所が、今どうなっているのだろうか、心配せずにはいられません。



大噴火の二日後は、阪神淡路大震災が起こった日でした。地震や豪雨、暴風といった自然災害の前では、人間はなすすべがありません。日本列島には、そういう「被災地」がたくさんあります。そのことについて作家・重松清氏が次のように言っています。

「僕たちは、忘れてしまう。小さな「被災地」を忘れ、古い「被災地」を忘れて、そしてなにより「次の被災地はどこだ」という、未来を忘れてしまう。それが本当に、自分でも呆れるほど情けなかった。(「希望の地図2018」より)

この文章を読んで、私も同じだと思いました。けれども、いつも被害にあったことを考えて生活しているわけにはいきません。おびえたり不安になったりするだけで、心をすり減らしてはならないと思うからです。コロナ禍の日々、毎日発表される感染者の数を知って、憂うつを募らせるように。

大切なのは、災害時の最悪を想定して、日ごろから準備をしておくこと。被害を最小限に抑えるための工夫と努力を怠らないこと。そして、過去の「被災地」から学ぶこと。そのために、話を聞いたり記事や本を読んだりすることが必要になるでしょう。可能ならば、現地に行つて、そこで暮らす人々と交流できれば何よりです。だから、いつかトンガ王国に行つてみたいと思いました。

最近では、寒い日が続き、雪の舞う日があります。そんな日は、空が灰色で、ちよつと気分も落ち込みぎみになります。ある冷たい朝、登校してきた子が小さな雪の玉をくれました。少し後に来た別の子から、偶然にももう少し大きめの雪玉が手渡されました。そこで、二つを重ねて小さな雪だるまを作りました。子供たちの楽しむ心に刺激され、ミニ雪だるまが白い岩山を眺める設定で、写真を撮ってみました。我ながら、勇気が湧いてくる一枚になりました。

「ミニ雪だるまは、子供たちの優しい手に固められて、ハッピーには、とても尊いものに思えたよ。常磐小を見守っていてね。」

